



令和3年(2021年)12月10日発行

1~4...人権週間特集 5...なばりの10大ニュース
8・9...市立病院だより 10...年末年始の市の業務・ごみ収集
14...ひまわり、年末年始の医療機関 15...1月の相談

市役所業務は、年末は12月28日まで。年始は1月4日から

発行/名張市 秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎ 0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉ pr@city.nabari.mie.jp

こころをひとつに。

人権週間 特集
12/4 ▶ 10



思いよ、届け!

「人権尊重」というと、とても難しいことのように思えるかもしれませんが、「相手の気持ちに寄り添う」ことがその第一歩。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人と人が顔を合わせてつながることが難しくなる中、気持ちを伝え合うこと、心を寄り添わせることの大切さに改めて気付いたという人も多いのではないのでしょうか。

今号では、市内で人権や命の大切さを音楽で伝えているバンド「ゆりね」や、コロナ禍で小中学生が紡いだ思い、そして、9~10月にかけて公募した人権メッセージをご紹介します。

☎ 人権・男女共同参画推進室 ☎ 63-7909

「ゆりね」の歌やメッセージなどを12月末まで限定公開!



人・愛・エール ナバリエール 2021

~第73回人権週間によせて~

詳しくはP2



ボーカル・キーボード担当
山口ひろみさん

カホン(打楽器)担当
成田 竜介さん

ギター担当
藤本 佐利さん

平成16年頃から、小中学校を中心に人権や平和をテーマにした楽曲や話を披露している癒し系バンド「ゆりね」。山口さん・成田さん・藤本さんの3人グループ

いかに相手の気持ちに「共感」できるか

人権や平和について考えること、学ぶことの大切さを歌で伝えるバンド「ゆりね」。もう20年近く、小中学校を中心にコンサートを開催しています。「相手の気持ちを尊重しよう。そんなきれいなことを言っているだけでは伝わらない。経験などを交えながら、聴く人に、いかに「自分ごと」として共感してもらえかが重要だ」と話すのは、ギターを担当する藤本佐利さん。作詞・作曲も手掛けます。「ゆりね」が演奏する楽曲や話の中には、「いじめ」「差別」「死」など、難しい課題がありますが、

自分の身の周りで起きたらと想像してみてください

「自分の身の周りで起きたらと想像してみてください」と藤本さん。子どもたちから反響の大きいのは、愛猫のヘンリーが交通事故に遭って二度と会えなくなる「チンチラのヘンリー」という曲。「自分の家族がいなくなったら悲しい」。子どもたちからは、そんな感想が多く寄せられます。曲に共感して泣き出す子どももいて、保護者からも「人権や差別について、子ども目線で伝えてくれている」と好評です。

「コロナ禍の今だからこそ、伝え続けたい思いがある」

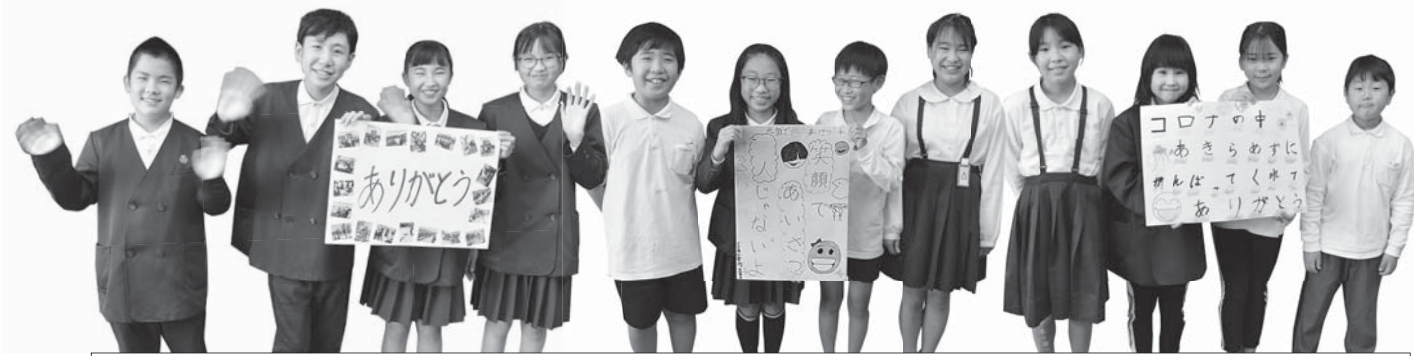
昨年春以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、「ゆりね」としての活動は休止していますが、藤本さんは単独で小中学校を回って歌い続けています。フェイスシールドを身に着け子どもたちとの距離を空けるな

「コロナ禍に寄せられたたくさんのメッセージ」

現在、「ゆりね」の歌やメッセージは、市ホームページの特設チャネルでご覧いただけます。これは、「コロナ禍の中だからこそ、互いを理解し合い、力を合わせていこう」という市内各団体の皆さんからのメッセージを発信する取組「人・愛・エールナバリエール2021」の一環です。コロナ禍で、生きづらさを感じたり、心身に課題を抱えたりする人がたくさんいます。ぜひ、「ゆりね」をはじめ、「相手の気持ちに寄り添う」皆さんの思いに触れてみてください(2・3ページでは、小中学生からのメッセージをご紹介します)。

ど、感染対策を行いながらの演奏は慣れないことも多いようですが、「コロナ禍で人と人との触れ合いが制限され、お互いの気持ちを伝えることが難しくなってきたからこそ、相手の心に寄り添うことの大切さを伝え続けたい」と訴えます。「相手のことを理解することって、なかなか難しいことだけれど、みんなが幸せに暮らしていくために、本当に大切なこと。自分の家族だったら、友達だったらと、自分の周りに起きることだと想像して共感することができれば、きっとお互いに分かり合えるはず」。藤本さんはそう笑顔で話します。

▶市役所1階ロビーで、12月24日まで、「ナバリエール メッセージボード」を設置しています。皆さんの「相手の気持ちに寄り添った」メッセージを書いてボードにはり付けてお寄せください。



蔵持小学校の皆さん



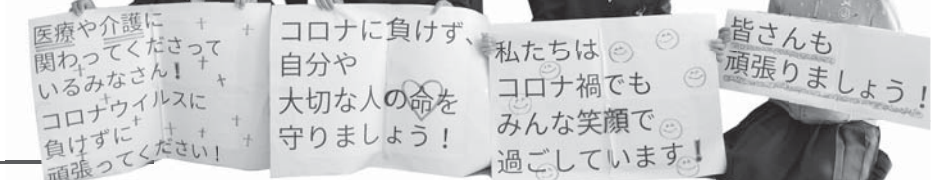
名張中学校の皆さん

心をひとつに。 人権週間 特集「思いよ、届け！」
12/4 ▶ 10



コロナ禍で子どもたちが伝えたいこと

コロナ禍で、暮らしの大きな変化にストレスを感じたり、マスクで表情が読み取れず不安になったりする子どもがいます。こうした中、「皆で乗り越えよう」「変わらぬ笑顔を忘れずに」「自分らしく生きよう」「コロナ禍で頑張っている皆さん、ありがとう」など、人を思いやり、力を合わせて前向きに進んでいこうという力強いメッセージが、子どもたちから寄せられました。



美旗小学校の皆さん



比奈知小学校の皆さん



赤目中学校の皆さん



比奈知小学校
大北 耕平 先生

「誰が感染しても、安心して教室に戻ってこられるように」がみんなの思い

子どもたちのメッセージには、「誰が感染しても、安心して教室に戻ってこられるように」という思いが込められています。これは、人権学習の時間に、6年生みんなで考えたクラスの「安心宣言」でもあります。「自分が感染することで、友達や家族に心配をかけたくない」「全員が笑顔でいられるように」という思いをもっている子がたくさんいたのです。

コロナ禍で、不安な気持ちを抱える子どもたちがたくさんいます。こうした状況の中でこそ、自分の周りのことや友達のことに関心しているのではなく、相手の気持ちを想像すること、そして、周りの変化や、自分なりに気づいたことがあったら黙ったままにせず、声をかけたり、相手に寄り添ったりすること。人権学習などを通じて、そんな力を育てていきたいですね。

自分を振り返り、互いについて考える「なかま学習」から生まれた思い

身の周りのいじめや差別に対して、自分ごととして考えたり、人の気持ちを尊重したりして、みんなが幸せな気持ちで生活できるようにしたい。そんな思いを紡ぎながら、1・2年生がグループでメッセージを考えました。赤目中学校で行う人権学習は「なかま学習」と呼んでいます。だれもが居心地のよい仲間として共に生き

ていくために、自分を振り返り、互いについて考える活動です。学年全体で、自分たちの思いや考え、学んだことを伝え合う「なかま集会」も行っています。「伝えること」と「聴くこと」のどちらも大切にするので、お互いが認め合うことができるのだと思います。コロナ禍で人と人との接触が制限される中、より必要とされる力なのだと思います。



赤目中学校
杉本 友斗 先生

児童生徒からのメッセージや「ゆりね」の歌を動画で！

人・愛・エール ナバリエール 2021

～第73回人権週間によせて～
12月31日まで限定公開！

小中学生(市内全校)からのメッセージをはじめ、「ゆりね」の歌やメッセージ、外国人住民を含めた座談会、自分らしく輝く女性へのインタビュー、人権擁護委員による紙芝居などの動画をお届けする特設チャンネルを市ホームページでご覧いただけます。

☎ 人権・男女共同参画推進室 63-7909
☎ 人権センター 63-0018



桔梗が丘中学校の皆さん



名張小学校の皆さん

こころをひとつに。 人権週間 特集「思いよ、届け！」
12/4 ▶ 10

あなたの大切な人に メッセージを贈ろう。

「いつもありがとう」「いつまでも元気で」「これからもよろしく」「あの時はごめんね」——。普段は照れくさくて言えないことや、忙しくて伝えられていない気持ちはありませんか。

市では、「あなたの大切な人へ……」140文字で綴るあなたからのファンレターをテーマに、身近にいる大切な人に向けての人権メッセージを、9月から10月にかけて募集。3度目となる今年度は、高校生を

中心に、思いのこもった683通ものメッセージをお寄せいただきました。ここでは、その中から入選したメッセージをご紹介します。

皆さんも、大切な「あの人」にメッセージを贈ってみてはいかがでしょうか。大切な人のことについて考え、温かく気持ちのこもった言葉を贈ることで伝わる「思い」がきっとあります。

☎ 人権・男女共同参画推進室 ☎ 63-7909

入選作品 人権メッセージ「あなたの大切な人へ……」 ～140文字で綴るあなたからのファンレター～

メッセージは原文のまま



「ばあば」へ

いつも親身になって話を聞いてくれてありがとう。今まで何度もばあばの「大丈夫」に助けられてきました。受験の日の朝、慣れないLINEで送ってくれたメッセージにはとても勇気づけられました。返信返せなくてごめんなさい。これからもたくさん迷惑かけると思うけれどよろしくお願ひします。大好き。

高校1年生

人権メッセージ 最優秀作品

「お母さん」へ

私の前での母はいつも元気で難病を患ったと聞いても辛そうな顔を一つも見せませんでした。でも、私が見ていない所でとてもしんどそうにしている、私はなぜ気づかなかったのだろうと後悔しました。今までは母に支えられてきたけど、今度は私が母を支えていきます。だから、私を頼ってください。

高校2年生

「父親」へ

毎日学校の送り迎えありがとう。入学当初から学校生活に不安を抱えてた私の話を聞いてくれアドバイスをくれて沢山の勇気をもらっています。父と過ごす車の中での一時間は私の人生の中でも大切なものです。これから三年間、一緒に歌ったり面白い話をしたり笑い合っ楽しんでね。いつも、ありがとう。

高校1年生

「見守りの田村さん」へ

いつも登校の時私達の安全のために気をつけて下さりありがとうございます。猛暑のような夏の日も、雪が降るような寒い日であっても毎日私達を見守って下さいました。小学生の時ふざけている生徒を真っ先に注意する姿、とてもかっこよかったです。これからもお体に気をつけて元気に過ごして下さい。

高校1年生

「お母さん」へ

入院している時、私が夜一人で寝るのが怖いからと必ずお母さんは隣の小さな椅子に座って一緒に居てくれたね。そして今も毎日家族のために食事を作り、洗濯をしたり、本当にいつもありがとう。普段は恥ずかしくて伝えることはできなかったけれど、これから先も唯一の母を私は、愛し、尊敬しています！

高校1年生

相手の気持ちに耳を傾け、自分の気持ちを伝えることから始めてみませんか

「人権尊重」と聞くと、「難しいもの」、「とっつきにくいもの」と思われる人も多いかもしれません。

「しんどくない?」「大丈夫?」「一緒にやろう」。そんな普段の暮らしの中で、無意識のうちに「誰かのために」と思い行動していることが、人権を尊重することにつながっているのだと思います。

目の前の人を思い大切にできる社会は、他の誰かがあなたのことも大切にしてくれる社会だと言えます。相手

の気持ちに耳を傾けること、自分の気持ちを相手に伝えようとする、そして、お互いを認め合い受け入れることが、こうした社会を築く第一歩なのだと思います。

市ホームページに掲載中の「人・愛・エール ナバリエール2021」では、子どもたちや外国人住民、医療従事者など、いろんな立場の人が自分の思いを伝えてくれています。コロナ禍の中、いろんな人の思いに触れるきっかけになればいいなと思います。



人権センター
かずこ
川岡 加寿子 センター長

